

お車で... 電車で... 足利への交通アクセスに関する詳細な説明。

御祈祷済



出典:『北の郷物語』 足利市北部地域の民(俗史)話集。中島太郎著。

発行: 緑がおいしい北の郷探偵団 (事務局: 足利商工会議所内 TEL0284-21-1354)

複製禁止

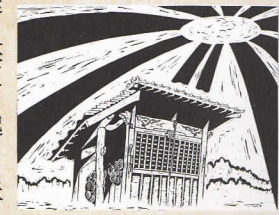


裏足利魔界紀行



将門魔界

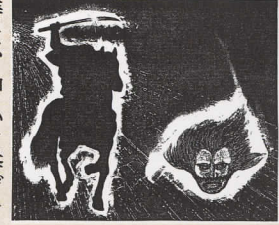
堤谷の子の権現



天慶三年(九四〇)、一族の所領争いから朝廷に謀反を起した平将門は、藤原秀郷、平貞盛の連合軍に討伐されました。その際調伏を祈った寺や死後落雷で飛散したと伝えられる五体を祀った社が足利市周辺に点在しており、現在の榑崎町堤谷地区の山上には下半身が落下したと言われ、足腰の守護神子の聖大権現として信仰を集め、祈願に草鞋が奉納されました。地元阿由葉家により代々守り継がれ、将門縁の一族が遙々参拝に訪れたという逸話はその由緒を物語っています。

将門魔界

善知鳥坂



天慶の乱を起した平将門に対する調伏祈禱は、神仏を挙げて行われ、千葉県成田市の新勝寺とそれに因み改名した小俣町の鶏足寺や大岩町の最勝寺でも営まれました。両地を直線で結んだ中間の茨城県坂東市岩井で将門が討ち取られたとされ、内通者の桔梗にまつわる禁忌とその御霊は、将門神として両崖山城をめぐる地霊に組込まれました。月谷町五十部地区から山越しの大岩町に至る善知鳥坂は、将門に仕えた善知鳥文治安方が開削したことに由来すると伝えられています。

忠綱魔界

魔軍の鬼哭



佐野市下飛駒町から作原町を目指した妻室一隊ですが、流血を示す血ヶ沢こと近沢峠で猪の落し穴の猪臼に落ちて死んだとも自害したとも言われ、作原町に十二御前の墓や宇都宮神社の獅子大明神、負傷した斥候が夜這いで怪我したと村人に偽り、後に夜這い地蔵と呼ばれるようになった供養仏が祀られました。また仙波町の鷹宮三騎神社の他、忠綱の築城や胡麻畑での戦死による禁忌を伝える鹿沼市内の五社の田原神社、桐生市黒保根町に忠綱大明神等が勧請されています。

忠綱魔界

結界記



義兼は、忠綱の怨霊の跳梁を阻止すべく桐生市梅田町に鎮魂の忠綱明神と皆沢八幡宮、赤雪山を挟み松田町のじけつ窪に八幡宮、同町の藤坂馬打、名草中町の須花、榑崎町の越床、塩坂の各峠の登り口に天王社を勧請、塩阿寺の鬼門、榑崎寺(法界寺)の守護に平家の長氏を登用、両寺を結ぶ三十七塔婆や経塚で結界を張り、北の霊域に曼荼羅を描き神仏の加護を期待したと見られます。自ら剃髪し戦勝から平和へ祈願を改め、生入定して神となり鎮守になると血書を遺したと言います。

忠綱魔界

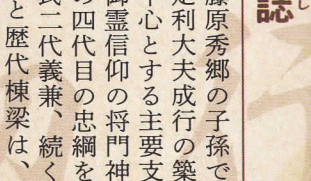
二つの足利氏



平安時代末、足利には、藤原秀郷の流れをくむ藤姓と後に子孫から足利尊氏が出る源氏系の源姓、二つの足利氏が存在しました。百人力で轟く大声に一寸の長い歯を持つ猛将、藤原足利氏四代忠綱は、源平合戦の幕開け宇治橋合戦で平家方に属し勇名を馳せ、野木宮合戦に敗退、平家勢力圏の瀬戸内へ落延び伊予国宇和(愛媛県西予市)で歯長又太郎忠綱として奮戦しましたが平家滅亡で孤立しました。鎌倉時代になると同時に足利は、源姓足利氏二代義兼の支配地となりました。

忠綱魔界

足利怨霊地誌



平将門を討った藤原秀郷の子孫で藤原足利氏の祖、足利大夫成行の築城した両崖山城を中心とする主要支配地を囲む川縁に御霊信仰の将門神が四社祀られ、その四代目の忠綱を滅ぼした源姓足利氏二代義兼、続く義氏、泰氏、頼氏と歴代棟梁は、鎮魂の浄土庭園を持つ四寺を建立、江川町吉祥寺門前を通ると馬が怯え暴れる伝承が残ります。忠綱を人格化する佐野氏に對し長尾氏は、祖霊社と両崖山城麓に七弁天を配置、戸田氏も新たな八雲上下両社、後に御霊社を勧請しました。

忠綱魔界

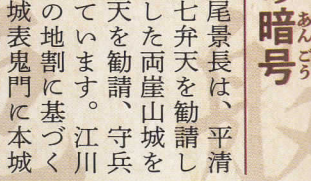
魔軍の鬼哭



勇猛果敢な戦いぶりから妖魔の如き武者と言われた藤原足利氏四代忠綱は、源平合戦後、家臣桐生六郎の父俊綱弑逆により一族郎党共々助命され、伊予国宇和(愛媛県西予市)から敗将として旧領足利へ帰還しました。源姓足利氏二代義兼の家富町の居館、後の鏝阿寺に寄食し緑町の福蔵寺で亡父母供養をしましたと語せられ、雪冤祈願した逆藤天満宮で二手に分かれ北部に逃亡、忠綱本隊は、月谷町馬打峠、名草町に向った忠綱妻室支隊にまつわる鳴草が名草の由来とも言います。

忠綱魔界

長尾七弁天の暗号



平家の血を引く長尾景長は、平清盛が福原遷都で清盛七弁天を勧請したことに倣い、修築した両崖山城を取巻く登り口に七弁天を勧請、守兵を置いたと伝えられています。江川町吉祥寺の浄土庭園の地割に基づき宇賀弁天を除き、同城表鬼門に本城一丁目目の小谷辯財天、本城二丁目目の明石弁天、西宮町長尾寺から遷座した通六丁目目の長尾弁才天、裏鬼門に西宮町本経寺の子安辨財天、今福町の辨財天、五十部町水使神社縁の磯弁天、月谷町五十部地区の巖鳴神社の七社が現存します。

忠綱魔界

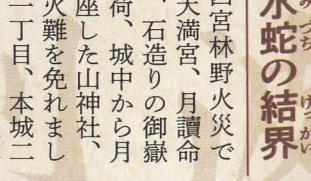
魔軍の鬼哭



忠綱本隊は、松田町に落窪、忠綱、札張、じけつ窪、忠綱山、葉鹿町の忠綱等地名に事跡を残し、赤雪山、老越路峠を経て桐生市梅田町で自刃、白犬、山鳥の禁忌や餅無し正月の家例が伝わり、家宝の避来矢(平石)の胃の着用で藤原秀郷の再来として人格化され、遺児にみどり市東町の太郎神社祭神、忠広こと赤堀孫太郎と一女の他、一男がいたとも言います。支隊は、妻室一隊を名草中町須花峠へ落延びさせ本隊と合流すべく藤坂峠を越えますが、匿われた一人を除き討死しました。

忠綱魔界

火蛇の災禍と水蛇の結界



令和三年足利市西宮林野火災では、足利城址主郭の天満宮、月讀命三日月神社が焼失し、石造りの御嶽神社、腰郭の尾曳稲荷、城中から月谷町福和田地区に遷座した山神社、外郭の長尾七弁天が火難を免れました。七弁天は、本城一丁目、本城二丁目、西宮町本経寺と旧鎮座地長林寺、今福町、五十部町、月谷町五十部地区に勧請され、延焼の防衛線に重なります。弁天は、河の女神としてせせらぎが音楽や弁舌に繋がる才能神・弁才天、水による恩恵を施す七福神の財宝神・弁財天でもあります。